

第104号 通巻19巻第1号
1999年5月10日 発行

守山市立埋蔵文化財センター
電話・FAX 077-585-4397

☎524-0212
守山市服部町2250番地

はじめに

柔らかい若葉の芽吹く季節を迎えています。平成11年度もスタートし、発掘調査が市内でも一斉に始まりました。今年度も下之郷遺跡や伊勢遺跡で確認調査を予定していて、貴重な調査成果があがるものと期待しています。また、民間開発や個人住宅の建築にともなう調査も予定されていますので、その成果を速報するとともに、整理調査で新たにわかったことについて乙貞紙上で速報していきたいと思ひます。今年度は津田新所長を迎え、新たな気持ちで乙貞を発行していきたいと思ひます。

就任の挨拶

毎朝、新聞を読むと必ずと言ってよいほど文化財の記事が載っています。人間の歴史が今ほどニュースになるとは10年前には想像もできなかったことです。

平成10年度に新聞やテレビで報道された守山市の遺跡は滋賀県内でも最も多く、その内容も全国的に貴重なものでした。日頃、各地で行われている発掘調査の成果が、広く市民に公開される機会は限られています。守山市ではこれからも、現地説明会や特別展示会の開催を通して、遺跡の重要性を知っていただく機会を増加したいと考えている次第です。私達の日常生活は時間や経済活動に追われ、過去を振り返る時間さえなかなかないのが現状です。学問や生産など人間の諸活動や、それを取り巻く自然環境には相互に影響を与えてきた長い歴史があります。それを振り返りその歴史に学ぶことが、私たちの現在を正しく知り、より良い未来を見つめていく材料になるといえます。

今年度も、埋蔵文化財の調査や展示会をとおして、市民の皆様に歴史や文化財に触れて頂く機会を増やしていきたいと思ひています。そして、これからの守山について考えて頂く機会を提供していきたいと思ひていますので、どうぞ直しくお願ひいたします。

守山市立埋蔵文化財センター所長 津田増夫

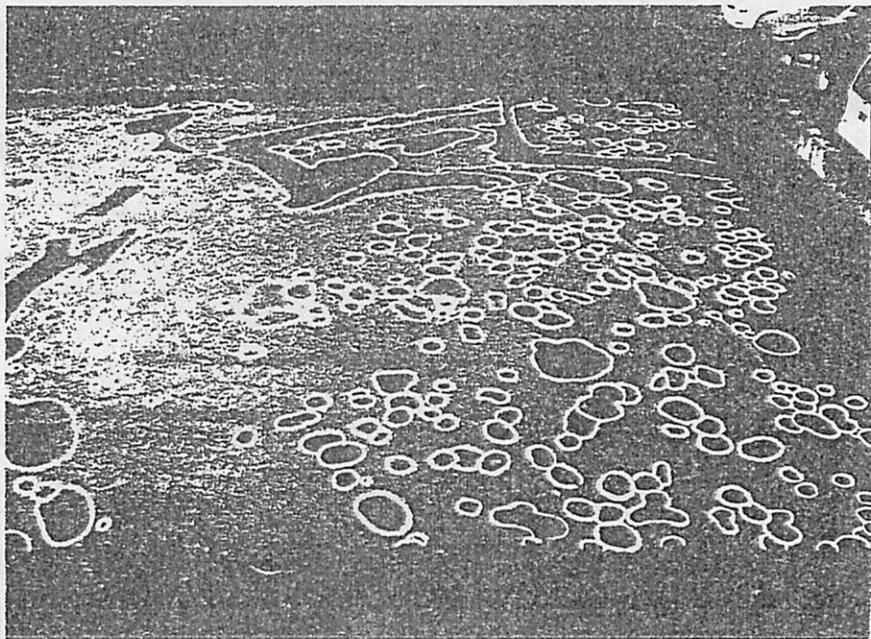
1. 下之郷遺跡第32次調査 (下之郷町)

新しく完成した都市計画道路(古高・川田線)の西隣において、2月末から3月中旬にかけて確認調査を実施しました。調査地点は下之郷遺跡の環濠集落の内側にあたり、たくさんの柱穴と区画溝などが検出されました。直径10m程の範囲で、柱穴が円形に配置された遺構が検出されました。重要遺跡の確認調

査であり、遺構の掘削を行っていないため詳しいことはわかりませんが、過去の下之郷遺跡の調査でいくつかみつまっている壁立式^{かべだち}建物^{しまたてもの}であろうと推測されます。

今回の調査は、遺構の広がりや性格をつかむための確認調査であり、平面検出に^{とど}めていて、見つかった遺構については元に埋めもどして、地中に保存しています。

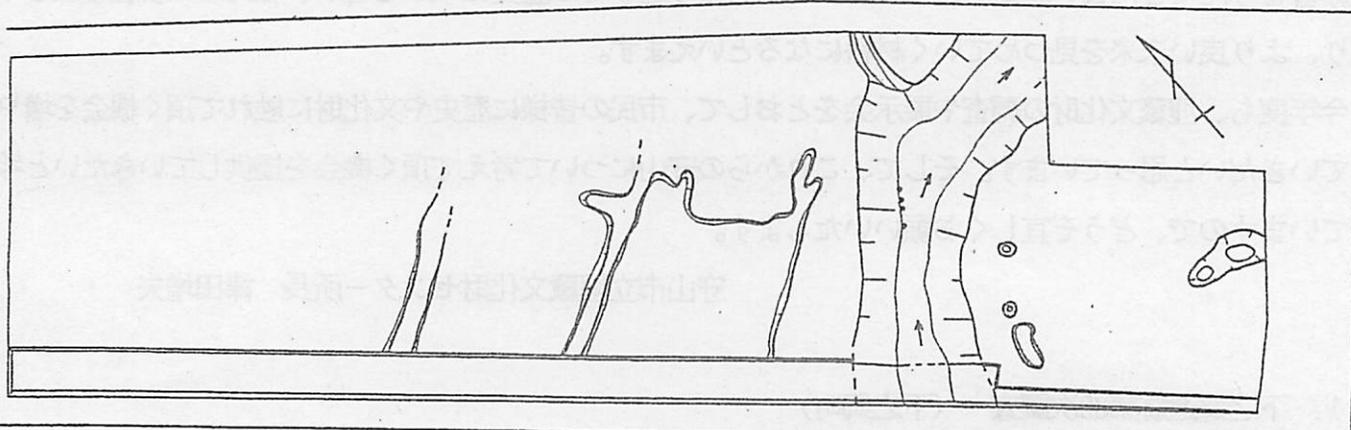
(川畑)



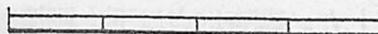
▲ 下之郷遺跡検出状況

2. 酒寺遺跡の調査 (49次調査)

3月後半に下之郷町字シノにおいて、アパート建築に先立ち発掘調査を実施しました。この場所は弥生時代の環濠集落である下之郷遺跡の東側約50mの地点にあたります。環濠の外側がどのように利用されていたのかを知る上で重要な地点といえます。調査の結果、古墳時代前期頃に利用されていたと思われる溝が調査地を南北に分断するように検出されました。この溝は幅約2.5m、深さ80cm程の規模で、砂まじりの土で埋まっています。水が勢いよく流れていたことがわかります。また、溝の肩に杭が4~5本打ち込まれていました。きっとこの溝は、田んぼに水を導く用水路だったのでしょう。また、この溝の東側部分からは、水田の畦^{あぜ}が検出されたことから、古墳時代においてはこの周辺が水田として土地利用されていたと考えられます。(川畑)



0 10m



▲ 酒寺遺跡遺構平面図

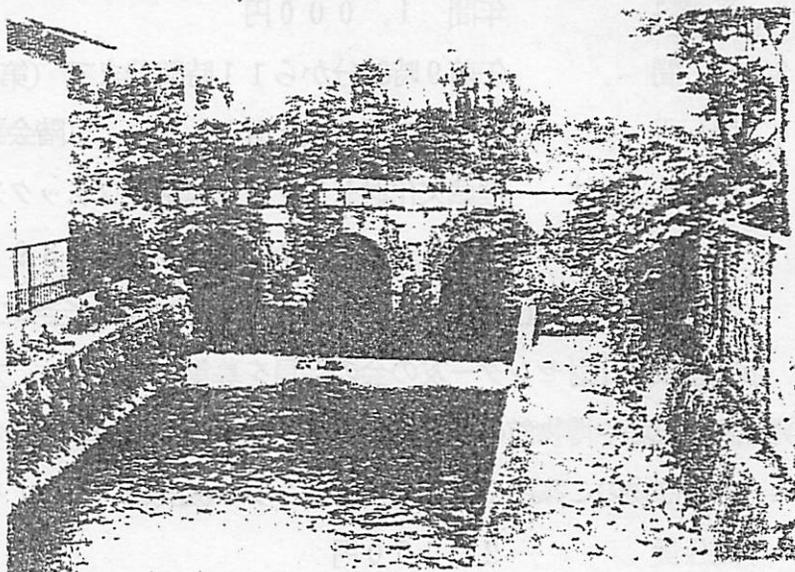
守山市内の近代化文化遺産の紹介

平成10年7月下旬から、田井中善晴氏と「近代化遺産所在地調査」を守山市内を対象に調査を行いました。「近代化遺産」とは幕末から昭和20年までの間に、明治の産業革命と呼ばれる産業の発展や教育制度など、現在の日本の基礎が目ざましく向上した過程を示す遺産のことです。市内を回ってみて、それが殆ど残っていないことに驚き残念に思いましたが、逆に残っている遺産のある「項目」に興味を覚えました。市内の近代化遺産の項目としては、農業・教育・神社・その他の大きく分類して4つの項目でした。農業では野洲川の水を用水として利用するための樋門や、各大字に残る農業倉庫・用水路などです。教育教育では二宮尊徳像や学校の門、神社では神武天皇遙拜所などで、その他の部類では顕彰碑があります。明治時代に国威高揚を目指したときの遺産や、農業では自然の溜池から用水路施設へと大きく変化していること、戦争中に二宮尊徳像が設置されたことなどが確認されました。

さて、JR西日本の橋梁では2ヵ所で市内では今まで見ることのなかった橋があることが分かりました。吉身三丁目の島田川にかかる橋梁で、3連と1連の煉瓦積みの橋が2ヵ所で確認されました。堀海道団地の奥にあって日頃目につく場所ではありませんが、一度目にすると記憶に残るものですので、この記事を見られた方は是非ご覧ください。この橋が現在まで何故残っていたのか注目されますが、1889年に造られたことがJRの記録にあります。現在でもそうですが、JR線に係わる工事（例えば地下道など）を行うときは厳しい条件がJR側からつけられるそうです。この線路を守る「拘り」が橋梁を保存してきたのではないかとおもわれます。（下の写真）

さて、別の項目で赤野井町の浜の集落の西側で、蓮如の箸塚の近所の道路端に県道の起点の碑を見かけました。昭和40年代以前のものと思われませんが、この碑も日頃目にすることはありません。赤野井浜から赤野井をって何処に通じていたのかわかりませんが、当時の地図で探してみるのも興味深いとおもわれます。また、顕彰碑では、市内に古高俊太郎・岡田逸治郎・森先生・寺田元八・高田信岳などの先人を讃えるものがあります。

かつて、野洲川改修工事で橋梁が幾つか撤去されましたが、洲本町と水保町の橋跡には、列系図橋の標石が4ヵ所保存されています。ところが、下流の天神橋や大川橋などではその石が全く保存されていません。しかも、橋が道路から分離されて宙に浮いたままです。近い将来撤去されるのではないかと思います。文化を残すという立場で考えると、地域に深く関わった橋を残



▲ 島田川の橋梁

すことが歴史の証人として大切なのではないのでしょうか。不要になったから撤去するのではなく、不要になればそれを保存し、後世に伝えようとする考え方の有効性を証明するのが文化なのだと思います。

市内を一周して文化や文化遺産の保存がなされていないことを感じたと同時に、歴史を振り返ることのできる遺産を後世に残していく活動や意識が大切であると感じました。(山崎)

埋蔵文化財センター入門講座のご案内

毎年、市内で実施している発掘調査によって、たくさんの遺構や遺物などが見つかри、多くの成果があがっています。埋蔵文化財センターの入門講座では、市民の方々に埋蔵文化財の成果について理解を深めて頂くため、下記の通り入門講座を開催します。ことしは「発掘最前線」-弥生へのいざない-をテーマに、全国的にも話題となっている下之郷遺跡や伊勢遺跡などの最新の調査成果をもとに、守山の弥生時代像にせまりたいと思っています。講座では、出土遺物を見ていただいたり、資料やスライドを使用して分かりやすく解説いたします。ふるってご参加下さるよう、案内申し上げます。

1、講座日程

- | | | |
|-----|-----------|------------------------|
| 第1回 | 6月19日(土) | 発掘最前線-守山の遺跡から弥生時代にせまる- |
| 第2回 | 7月17日(土) | 弥生時代のはじまり-中島遺跡の調査から- |
| 第3回 | 8月7日(土) | 弥生のタイムカプセル-下之郷遺跡の調査から- |
| 第4回 | 9月28日(火) | 遺跡発掘現場の見学 |
| 第5回 | 10月16日(土) | 弥生の王国-伊勢遺跡の調査から- |
| 第6回 | 12月11日(土) | 弥生時代から古墳時代へ-下長遺跡の調査から- |

2、受講料 年間 1,000円

3、時間 午前9時30分から11時30分まで(第1回目のみ午後1時30分~3時30分まで)

4、場所 守山市立埋蔵文化財センター 二階会議室

5、申し込み方法 埋蔵文化財センターに電話かファックス、有線で申し込みください。

☎・FAX 077-585-4397 有線 (速) 38112

埋蔵文化財センター友の会のご案内

市立埋蔵文化財センター友の会の会員を募集しています。友の会では、埋蔵文化財の理解を深めるため発掘調査現場や博物館の展覧会の見学、講演会や体験学習会などの開催を行っています。会員になりますと、各種催物のご案内や埋蔵文化財センター機関紙「乙貞」を送付させていただきます。

年間会費 2,000円

※ 詳しいお問い合わせは、市立埋蔵文化財センターまでご連絡ください。